

第 64 回 大分県事業評価監視委員会

日時：令和 6 年 8 月 7 日（水） 10:00～12:30

場所：大分センチュリーホテル 2 階 桜の間

議題：公共事業評価（事後評価 4 件）

出席委員：角山委員長、田中委員、亀野委員、鶴崎委員、鈴木委員、安波委員、志賀委員

対象事業：

1. 【事後評価】 都市公園事業 大分スポーツ公園
2. 【事後評価】 道路改築事業 主要地方道 大田杵築線 溝井工区
3. 【事後評価】 地すべり対策事業 湯平地区
4. 【事後評価】 広域河川改修事業 一級河川大分川水系 七瀬川

（審議開始）

\*\*\*\*\*

1. 【事後評価】 都市公園事業 大分スポーツ公園

\*\*\*\*\*

○公園・生活排水課 説明 10:12～10:23

○委員

現地調査に行ったが、エントランスや会場等はとても明るく、エントランスには竹で作られたおしゃれなテーブルやイスがあり、県民の方が親しみを持てる施設だと感じた。目的にあるとおり、県民の誰もが気軽に利用できる施設だと思った。また、県外から来られた人にも、とても良い印象を持ってもらえる施設だと思った。

その一方で、武道場の観客席の数が少ないと感じた。実際、観客席の前に椅子を出して使用しているとの話もあり、今後、同種事業を実施する際は、よく検討する必要があるのではないか。

○公園・生活排水課

各種競技関係者と協議しながら観客席の数を決めたところだが、今後、同種事業を実施する際はよく検討する。

○委員

事業費について、本件の事前評価時は、65 億以内で実施するという大まかな説明だった。事業費は、もう少し細かく根拠を積み上げて示すべきだったと思うがどうか。

○公園・生活排水課

今後、同種事業の事前評価時には、もう少し細かく事業費を示すよう検討する。

○委員

1-1 事後評価書の必要性の欄について、既存の総合県立体育館の土日祝日の大会利用率は 96.6%とあるが、いつの統計か。追記する必要があるのではないか。

○公園・生活排水課  
追記する。

○委員

1-1 事後評価書について、県産材を使用していることをもっとアピールしても良いのではないかと。

○公園・生活排水課

県産材を使っていることについて、記載するかは検討する。

○委員

文科省の調査によると、令和4年時点では、大分県内の体育館には空調が設置されていなかった。この体育館には空調が設置されており、学校行事で平日活用されることが増えていると聞いている。また照明効果や音楽が利用できる施設となっており、大分県として誇れる施設だと思った。

県産材、竹や七島藺（しちとうい）等を使用していることや北部九州インターハイなどで利用されていることを、SNSなどで発信したらどうか。

○公園・生活排水課

SNSなどを使って、もっと広くアピールできるように検討する。

○委員

平日の個人利用を増加させる必要があると思うがどのように考えているか。

○体育保健課

平日の利用について、指定管理者により、平日の利用率を上げるため、武道教室やレディースバトミントン教室などを実施し、平日利用されない時間帯を活用するよう努力している。

○委員

大分県の誘致はどのようにしているのか。

○公園・生活排水課

誘致の方法について、指定管理者から、競技団体や関係機関に誘致を依頼している。一方、大分県も、学校等に合宿等に使用してもらおうようお願いしている。

○委員

指定管理者に任せた結果が、平日の個人利用43%だと思なので、県として指導するという必要だと思うがどうか。

○公園・生活排水課

指導していく。

○委員

発生した残土約 9,000m<sup>3</sup> を別府湾スマートインターチェンジへ流用したとあるが、全量を流用したのか。

○公園・生活排水課

9,000m<sup>3</sup> 全量を流用した。

○委員

NEXCOの工事と別府市の工事があったと思うが、どこの工事へ流用したのか。

○公園・生活排水課

どこの工事へ流用したか、そこまでは不明。

～10:41

\*\*\*\*\*

2.【事後評価】 道路改築事業 主要地方道 大田杵築線 溝井工区

\*\*\*\*\*

○道路建設課 説明 10:41～10:53

○委員

現地調査に行ったが、委員全員が、この橋の形の綺麗さに驚いて感動したと思う。こういう橋を作ったという県民への報告と素晴らしい橋を作ったというアピールをしてもいいのではと思う。

歩道の幅員が広いのではないか。

○道路建設課

歩道幅員の最低である2メートルと施設帯50センチの2.5メートルで整備しており、道路構造令上は最低限で整備している。近年、歩行者の数が多くない場合は、歩道を設置せず、路肩を広くすることなどを検討している。

○委員

走行時間が約3分短縮とあるが、どのように計測したのか。

○道路建設課

旧道の区間延長が2.9キロメートル、その旅行速度を30キロとすると、5.8分となる。バイパスの延長が2.5キロメートル、設計速度は50キロとすると3分となる。したがって、2.8分の短縮がされ、約3分とした。実際は、離合困難による滞留も発生するため、もう少し短縮されると思う。

○委員

環境への配慮について、「自然林復元工法」を採用したとある。写真を見ると、ツルや竹が侵食しているように見えるがどうか。

○道路建設課

現地の種を採取して、法面にそれを植えるという工法であり、非常に環境への負荷には低減効果があると考えている。現地環境に戻ったという認識である。

○委員

大型車の混入率がプラス 6.7 ポイント増え、交通量も 1.4 倍に増えているということだが、住民の方からの声はないか。

○道路建設課

大型車や交通量が増えているが、バイパスの工事のため、集落のある旧道からは車両交通が転換されて減少している。また、バイパス部は歩道を整備したため、安心感が増したという声をいただいている。

○委員

便益について、走行時間短縮便益は上がっているが、走行費用短縮便益と交通事故減少便益が下がっているのはなぜか。

○道路建設課

最新の費用便益分析マニュアルに沿って算定するが、本マニュアルで、便益を算定する原単位、つまり単位あたりの時間短縮の価値や、走行経費減少の価値が決められており、それが改定によって増減するため、それが一因となって便益が変化する。例えば、走行費用短縮便益は、ガソリン代やタイヤの摩耗などの経費が、道路整備によって、どれだけ減らすことができるかというものであるが、技術革新による車の性能向上により燃費が向上すれば、道路整備による燃費削減の効果は目減りし、その分道路整備による便益が減ってしまう。

交通事故減少便益についても、事故減少便益を算定する式がマニュアルに定められており、この式が変われば影響がある。

○委員

国道 10 号と比較し、大田杵築線を走行した場合の時間は、約 25 分短縮とあるが、どのように計測したのか。

○道路建設課

職員が実際に走行し計測を行い、往路復路の平均時間を記載している。

○委員

時間帯やドライバーを変え、計測数を増やすと、より正確な旅行速度が出ると思うがどうか。

○道路建設課

今後はそのようにしたい。

～11:21

\*\*\*\*\*

3.【事後評価】 地すべり対策事業 湯平地区

\*\*\*\*\*

○砂防課 説明 11:27～11:37

○委員

特に大分県の場合、中山間地が非常に多く、水の量も多分相当あり、水を処理しないと、人が生活できないような環境がほとんどだと思う。そうすると、この地すべり事業は本当に大事であり、人の命を守る、人の暮らしを守る大事な事業である。

そのような事業費を、最低限で算出すると、費用が増えますとか工期が伸びますとなるので、再評価、事後評価で事業費が増えた、工期が伸びたとならないよう、もう少し当初からきちんと算出、計画できないのか。

○砂防課

地中のことであるため、多くの調査を行えば、的確な事業費等が算出できる。調査費用を確保できるよう国にも要望する。

○委員

事業内容において鋼管杭工という記載があるが抑止杭工の中の一つの工種ということか。また、抑止工で統一するほうが良いのではないか。

○砂防課

鋼管杭というのは抑止杭工の工種の一つで鋼製の杭のことである。記載については統一する。

○委員

費用便益について、人的被害が増えているがなぜか。

○砂防課

地すべり対策の費用便益分析マニュアルが改正され、精神的損害額が追加計上されることになったため人的被害の便益が増えた。

○委員

そのことを評価書に記載したらどうか。

○砂防課

記載する。

○委員

平成5年から令和元年の事業期間中に、どれだけの戸数の変化があったのか。

○砂防課

戸数の変化は分からないが、温泉宿の戸数は当時18件あったが現在17件となっている。

○委員

事業完了後に、地元の方に説明などしているのか。

○砂防課

事業当初の地すべり区域指定の際やブロックごとに地元説明を行っているが、事業完了後の地元説明は行っていない。区長さんや代表の方には説明している。

○委員

地形の変状が確認される可能性もあるため、定期的な点検などにより、現状の確認を行っていく必要があると記載があるが、今後どのような点検をするのか。

○砂防課

砂防施設は基本的に5年に1度点検をする。大雨が降れば、その都度、職員が点検することもあるし、道路沿いで見える範囲であれば、巡視も行う。

○委員

公共事業を行う際、事前の了解をもらうため、県や市は、一生懸命説明するが、できたものについてのアピールはしない。

集水工の中の、あれだけの水がどんどん出ているところを見て、対策されていると実感すると思う。しかも、5年に1回点検が必要とのことだが、専門の資格を持った人が、一番下まで階段でおりて、空気が薄い中で作業を行うということ、いろんな人のおかげで自分達の安全が守られていると実感すると思う。

よくこの委員会で、県のアピールの仕方とか、話題になっていると思うが、この現場では集水工を覗き込んでもらうのが一番だと感じた。地元の方に集水井工を直接見てもらうなどアピールをするとよいのでは。

○砂防課

土木未来（ときめき）教室や砂防教室など、機会を見て、アピールできるよう前向きに検討する。

～11:59

\*\*\*\*\*

4. 【事後評価】 広域河川改修事業 一級河川大分川水系 七瀬川

\*\*\*\*\*

○河川課 説明 11:59～12:12

○委員

実際の事業費は減っているのに、費用便益分析について、総費用は前回より増えているがなぜか。

○河川課

前回と比べるとの費用便益分析の総費用は上がっているが、これは今回費用便益分析の基準年が変わったことによるもの。

○委員

河床掘削など、今後メンテナンスとして県がこれぐらいの費用負担する事業であることを事後評価書に記載すべきではないか。

○河川課

今後の課題に記載する。

○委員

計画規模 30 分の 1 で整備されているが、近年の時間雨量 100 ミリを越す雨が頻発化している状況を踏まえると、30 分の 1 で大丈夫かという気がしているが、計画規模の見直しも今後行う予定であるという認識なのか。

○河川課

上流にはダム、下流には直轄河川があることから、直轄の動きと合わせて、検討していく必要があると考えている。

○委員

投資期間測定期間について、西暦表記を追記して欲しい。

○河川課

追記する。

○委員

年間 3,000 万円ぐらいの維持管理費を計上しており、安くはないが問題ないのか。

○河川課

今現在は、維持管理費を 3,000 万円程度見込んでいるが、今後その河川の特性を見て設定をしていく必要がある。

～12:30